

KLIS TODAY

No.
43

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <https://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

心躍る方へ

河本 毬馨

2014年に知識情報・図書館学類に3年次編入学をしてからというもの、約10年の月日が続いていることに驚いています。私にとって学類時代は、その後の人生の方向を定めるための時間でした。現在は研究室から富士山が見える大学で、司書課程の教員として働いています。

編入学のきっかけは、短大時代の恩師がたまたま編入担当の先生で、別の要件で面談に行った際に勧めてくださったことでした。ちょうど司書課程の内容が興味深くもっと学びたいと思っていたので、それなら図書館情報学が学べる大学にと探して見つけたのが筑波大学でした。本学類では一般的な司書課程の授業に加えて深い内容の授業も多く、自分に合っていました。(当時は例えば「学校図書館」や「日本図書学」などが一授業として独立していました。) 学生は情報技術に慣れている人が多く、皆いつも自分のPCを持ち歩いており、所属しているだけで自然とICTスキルが向上しました。初めて触れるプログラミングの授業は難しい部分もありましたが、同期の元高専生などに助けをもらい、お礼にラーメンを奢る日々を送りました。つくばはラーメンが美味しいです。



同期とたまに登った筑波山

インターンシップでは公共図書館へ行き、学んだ知識と現実をつなぎ合わせて考えることに面白みを感じました。この経験を通して図書館情報学がどのように現実の図書館に貢献できるかを考えるようになったことが、のちに司書ではなく研究者の道に進むきっかけとなったように思います。

学生のうちは偶然出会った人やなんとなく取った授業などがその後の人生に影響を与えることが多い時期だと思います。ぜひ色々な経験をして、自分の心が躍るのはどの方向なのかを感じる時間にしてみてください。

(かわもと・まりか 山梨英和大学人間文化学部 助教)



卒業研究紹介

生きづらい人のためのシェアハウスに関する研究

三田 紗柔加

シェアハウスが増加する中で、「生きづらさ」を抱える人々を対象としたシェアハウスが社会的に着目されています。そこで、生きづらい人向けのシェアハウスに宿泊して参与観察を行うとともに、住民の方々とシェアハウスの運営者の方々へのインタビュー調査を実施しました。調査の結果、生きづらい人向けのシェアハウスの意義や課題を明らかにし、シェアハウスで暮らす時間が住民の方々にどのような影響を与えているのかを考察することができました。本研究がこのようなシェアハウスの発展に貢献できれば幸いです。

(みた・さやか 知識科学主専攻4年次)

調査のまとめ

- 「生きづらさ」という大きな括りで同じ悩みを抱えた人々が生活を共にすることで、悩みを相談しやすい環境ができあがる
- 住民にとってシェアハウスは「長期間住み続ける場所」ではなく、自立するまでのとまり木のような存在である
- 運営側は住民に対し、積極的に手を貸すというよりも、要求があった際に個別に対処するという支援の形をとっている

生きづらい人向けのシェアハウスは他者との関わりの中で自分らしさを確認し、ありのままの振る舞いを受け止められる場所

Human+AI Crowdタスク割り当てのためのAIワーカの効率的な評価

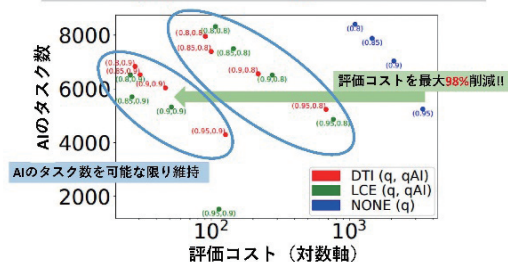
神田 智也

労働力不足の解決策の1つとしてAIの利用があります。例えば、大量のタスクに対して人間の労働力が不足する場合に、より多くのタスクをAIに任せたいと考えたとします。これを実現する従来の手法で

はAIへのタスク割り当てに膨大な計算コストが必要でした。本研究で提案したAIワーカフィルタはAIに割り当てるタスク数を維持しつつ計算コストを低減しました。これによって従来の数十から数百倍の数のAIが利用可能になりました。本研究は人口減少社会の限られた資源でより多くのAIが活用可能な手法を提案することで、持続可能な開発に貢献します。

(かんだ・ともや 知識情報システム主専攻4年次)

提案手法(赤,緑)は従来手法(青)より低コスト!



毎日新聞社の「読書世論調査」と「学校読書調査」

石井 亮太

小・中・高校生の読書傾向

- ・小学生
調査開始初期から現在まで常に読書率が高い。5月1か月間の読書冊数も増加傾向にある。「本を読む」層が増えている状態。
- ・中学生
1990年代半ばまで不読率が増加傾向。1996年を境に不読率が激減し、以降「本を読む」中学生が増加傾向に。
- ・高校生
1998年まで不読率が増加傾向。その後若干下がるも、再び増加し現在は約60%が不読の状態。

私は、毎日新聞社が1947年から実施している「読書世論調査」(全73回)と、1954年から実施している「学校読書調査」(全65回)について研究しました。約70年の間に調査の方法や対象がどのように変わったのかをつぶさに辿り、調査データを収集・分析して日本人の読書行動がどのような変化を遂げてきたかを明らかにしました。さらに、調査結果を基に「読書離れ」の実態についても考察し、その一端を明らかにしました。今後両調査を用いた更なる研究が行われる際に、調査手法や調査結果の変遷を知る一助になれば幸いです。

(いしい・りょうた 情報資源経営主専攻4年次)

図書館インターンシップ実習体験談

東京工業大学附属図書館

宇田川 翔輝

私は2022年の8/29-9/9の14日間、インターンシップ生として東京工業大学附属図書館でお世話になりました。東京工業大学（東工大）には、2つの図書館（大岡山館、すすかけ台館）とそれを管理する5つの課があり、インターン中はそれらの各課を日毎に巡りながら、大学図書館での運営業務の基本や実例を学ばせていただきました。

東工大図書館でのインターンシップでは、職員の方々が丁寧にプランニングをしてくださったおかげで、業務の理論や作業フローなどを勉強する座学と、実際にシステムや機械を操作したり、書架に行き行って体を動かしたりする実習の両方を研修させていただくことができました。特に、これまで具体的な作業フローのイメージが無かったレファレンスなどの高度な業務について実体験を伴った理解が出来たのは、私にとって実りある事でした。最終日には14日間をまとめたプレゼンを行い、自身の学びについて振り返る事も出来ました。また、様々な課を順に回り、それぞれがどのように連帯しながら図書館を運営しているのかを学習したことで、大学の講義だけでは補いきれない、図書館運営の複雑さに関する現実的な理解が進みました。総じて、東工大図書館でのインターンシップは、私に図書館での仕事についてより深い理解とさらなる関心を与えてくれました。東工大図書館の皆さん、ありがとうございました。

（うだがわ・しょうき 情報資源経営主専攻3年次）



お茶の水女子大学附属図書館

森本 ひのき



私は2022年の夏休みにお茶の水女子大学附属図書館にてインターンシップを行いました。お茶の水女子大学でインターンシップをさせていただくにあたって、①大学図書館の業務を知ること②大学図書館で児童サービスを展開させることができるのかを考えるという2点の目標を持って挑みました。インターンシップでは、新刊書籍の選定業務や図書・雑誌目録の作成、カウンター業務といった図書館での業務や、大学に併設しているいすみナーサリースクールへの見学、お茶大生で図書館インターン業務を行っている学生との交流会などを行わせていただきました。これらの活動によって、一つ目の目標は大いに達成することができ、就業への視野が広がりました。また、二つ目の目標については、難しいという判断を持ちましたが、大学図書館職員になって児童と大学図書館を結びつけるようなイベントを企画・実施したいという新たな目標ができました。将来への夢が広がり、新たな目標を持つことができたインターンシップは、私にとって大変貴重な体験となりました。

（もりもと・ひのき 情報資源経営主専攻3年次）

メディアとしての身体を知を再考する

松原 正樹

みなさんが一輪のバラを観て美しいと感じるのはどんな時でしょうか。花はどのように咲いていて、あなたはどんな状況で観賞していますか。花の色や形など、答えは千差万別でしょう。感性とは身体感覚に基づいた無意識的な印象判断ですので、一人一人の固有の体から異なる感性が生まれるのは当然のことと言えます。

しかし、情報技術の用い方によっては人々の感性が鈍ってしまいかねません。2023年現在、誰もがAIを用いて文章や絵などを簡単に生成できるようになりました。美しい一輪のバラの絵もあつという間です。ですが、AIは一見するともっともらしい平均的な答えを出しているだけでその人が思い描く美しいバラを表せているわけではありません。むしろ意識しないで使い続けると「美しい一輪のバラ」が記号化され、何が美しいのか、なぜ美しいのか、を徐々に見失ってしまいます。だからこそ、自分の感性が何を求めているのかについて注意を向けていくことが必要です。そうすれば、AIが人のアイディアを具現化し、創造性を発揮するための良きパートナーとなりうるでしょう。

ところで、感性の起源とは何でしょう。感性は他の動物も持っていることが知られています。つまり、感性はことば以前に身体をメディアとして脈々と受け継がれてきた生きとし生けるものに備った智慧と言えるでしょう。現代の私たちが本来の自分の感性に気づき、情報技術とどう向き合っていくのかを一緒に考えていきませんか？

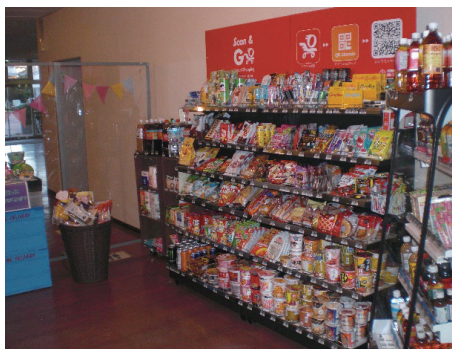


メディアとしての身体を場にひらく

着任のご挨拶：2022年4月に知識情報・図書館学類に着任しました。専門は認知科学で、芸術表現を通じた身体知の学びを研究しています。学類では知識科学専攻に所属し、「身体知」「知識発見基礎論」などの授業を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

(まつばら・まさき 知識情報・図書館学類 准教授)

春日エリアに無人コンビニがオープンしました！



2022年9月5日、7B棟1階に、カスミが運営する無人コンビニ「オフィススマートショップ (オフィスマ)」がオープンしました。春日エリアに売店がなかったことから、学生さんの要望で実現したものです。飲料、お菓子、パン、インスタント食品から文房具まで揃っていて、値段もお手頃です。また、24時間営業、キャッシュレス決済で、Pay Payでも払えるので大変便利です。商品を希望すると、可能な限り応えてくれるのも嬉しいところです。多くの方に利用いただくことで、さらなる規模の拡大を目指しています。

(図書館情報エリア支援室・学生支援)